

在外教育施設における運動会への取り組みについて

前バンコク日本人学校 教諭

福島県伊達市立保原小学校 教諭 阿部 敏之

キーワード：在外教育施設，体育的行事，運動会，日本文化

1. はじめに

タイの首都バンコクは、日本の南西約4500kmに位置し、570万人以上の人口を有する大都市である。また、ラオス、ミャンマー、カンボジアを含むインドシナ半島経済圏の中心地でもあり、1960年代の高度経済成長期には多くの日本企業が進出した。現在では、自動車関連の企業を中心に数千社が工場や営業所を構え、それに伴ってバンコク駐在の日本人も増え続けている。2010年の統計では、在留邦人の数は約34,000人とされる。

バンコク日本人学校は、1956年（昭和31年）に在タイ日本国大使館附属日本語講習会として創設された世界で最も長い歴史を誇る日本人学校である。1972年にバンコク日本人学校と改称し、1982年から現在の地に校舎を構える。小学部中学部の併設校で、児童生徒の在籍数は約2,500名と規模の上でも世界で有数の日本人学校である。

私は平成21年度から平成23年度までの3年間、バンコク日本人学校で勤務させていただいた。特に2年目からは体育主任という校務を仰せつかり、海外という環境のもとで、学校全体としていかに教科体育の指導を充実させていくか、いかに運動施設や用具を整備していくか、そして、この大規模校でどのように体育的行事を運営していくのか等、子ども達の体力向上のために努めてきた。その中で最も印象に残っているのが平成22年度に行われた第55回大運動会の企画・運営についてである。（平成23年度の第56回大運動会は、タイ国の洪水災害による休校のため中止）在外教育施設において、どのように運動会が実施されているのか、日本のそれとどのように異なっているのか、その概略を紹介したい。

2. 運動会について

(1) 運動会の概要

毎年、雨季が明けた11月上旬にバンコク日本人学校第1グラウンドにおいて紅白対抗大運動会が開催される。小学部約2,000人、中学部約500人の全児童生徒2,500人、そして、競技を見守る1,500人以上保護者やその親族、全て合わせると総勢4,000人以上の大規模な大会となる（この日に来校できるのは、児童生徒の保護者と親族のみと限定され、交通手段も学校で準備した特別バスのみとなる）。

着任式や離任式等の特別な儀式的行事を除くと、小学部と中学部が一堂に会して行う行事は運動会のみである。ほとんどの児童生徒は、「年間を通して一番楽しみで一番思い出に残る行事である」と答え、保護者も「運動会を通して、子ども達が多くのことを学び成長する」と熱い期待を寄せている。子ども達にとっても、保護者にとっても、運動会は特別な行事であり、特別な一日となる。

これらのことから、バンコク日本人学校の運動会はただの体育的行事の1つという捉え方ではなく、教育課程の中でも重要視され、学校の大きな特色の1つとなっている。この大会を、PTAの協力を頂きながら、日本人の教職員、水泳コーチ・看護婦・用務員等のタイ人スタッフ、欧米人を中心としたベルスタッフ等、150人の教職員が一丸となり、総力を挙げて運営していく。

(2) 運動会の運営計画

年度当初の4月に行われる企画会に運動会実施計画案を提案し、素案を全職員に伝える。その後、詳細を煮詰めていき、8月の企画会において最終的な実施全体計画を提案する。これをもとに各学年、各係がそれぞれに動いていくこととなる。

運動会に向けての運営計画（平成22年度 大運動会）

月	日	曜	会議・仕事内容等	担 当	特別バス関係
9月	9	木	各種目の要綱締切	種目責任者	
	17	金	児童生徒・職員の紅白分け締切	各学年	
	29	水	応援団の決定	応援係	
10月	4	月	応援団結団式 係の必要人数報告	応援係 各係	
	8	金	大運動会細案検討最終企画会	企画会	バス申し込みメ切
	15	金	応援係活動開始 大運動会職員打ち合わせ会 職員係会 児童生徒係提出締め切り 案内状発送 紅白対抗リレー選手決定（小学部） 大玉空気入れ起案	応援係 職員会議 小6, 中1~3担任 総務 種目責任者 職員・児童生徒	
	20	水	放送機器設置開始・水筒入れ配布 放送用テント設営 1・2校時	係	
	21	木	第1回全体練習 1・2校時 演技図提出締め切り	職員・児童生徒 各種目責任者	
	22	金	第1回全体練習予備日 1・2校時 演技図印刷・綴じ込み	事務部, 総務, 体育体育部, 係	
	26	火	第1回各係会 6校時（小6・中） 大綱準備	職員・児童生徒 職員・児童生徒	バス乗車券配布
	28	木	第2回全体練習 1・2校時 第2回全体練習予備日 1・2校時	職員・児童生徒	保護者用文書配布
	30	土	テント張り（発注～9月に事務と連絡） （運動場でのサークル活動停止30～9日）	テント業者	
	11月	1	月	徒競走トラックポイント設置	総務・体育
2		火	第2回各係会 6校時（小6・中）	職員・児童生徒	
3		水	予行練習（1～4校時）及び反省会	総務・体育	
4		木	予行練習予備日1～4校時	総務・体育	
5		金	（万国旗張り）	装飾・体育	
6		土	前日準備 職員打ち合わせ		
7		日	第55回泰日協会学校大運動会		
8・9		月火	振替休業日		
11		木	礼状発送, アンケート配布（教師用）	総務・体育	
13		土	アンケート集計	体育	
15	月	運動会学年会計締め切り	会計		

(3) 種目について

運動会実施種目一覧表（平成22年度 大運動会）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
個人競技（徒競争）	1		1		1		学級対抗 1		
学年団体競技	1	1	1	1	1		男女各 2		
団体演技	1		1		1				
選手リレー	1						1		
全校競技	1								

- ・ 徒競争について …小1・2年は50m，小3・4年は60m，小5以上は100mを走る。
- ・ 団体競技について…玉入れ，騎馬戦，綱引き，棒倒し，棒引き等を実施。
- ・ 団体演技について…低学年はダンス，中学年は民舞，高学年は組体操，中学生男子はボディパーカッション，中学生女子は創作ダンスを実施。
- ・ 選手リレー …各学年から選抜された選手がバトンを繋いでいく。小学部，中学部それぞれ実施。
- ・ 全校競技 …全児童生徒が紅白対抗で大玉送りを行う。

(4) 運動会の実際

平成22年11月7日（日），バンコク日本人学校第1グラウンドにて，第55回大運動会が盛大に開催された。「勝利のゴールを僕たちが！魅せろバンコクのサムライ魂」というテーマのもと，朝の開会式から午後の閉会式に至るまで，22つのプログラムが生まれ，工夫を凝らした様々な演技・競技が行われる。

友達と競い合い，全力で駆けぬける徒競争。

息を合わせ，リズムに乗って踊るダンス。

作戦を立て，仲間と共に戦う団体種目。

応援団のリードで，声をからして味方を鼓舞する応援合戦。

一つのバトンに願いを込めてつないでいくリレー。

どの種目においても，子どもたちは，それぞれが熱い思いを胸に秘め，全力で精一杯競技に取り組んだ。そんな子どもたちの躍動する姿は，来校された来賓の方々，保護者の方々，そして教職員に至るまで，見ている全ての者を魅了し続ける。

午前の部を折り返したところでは，白組がリードする展開。しかし，巻き返しを図る紅組が，後半から勝ち星を重ね，次第にヒートアップ。盛り上がりも最高潮に達したところで運動会は幕を閉じた。結果は，紅組951点，白組910点で見事紅組の優勝。

勝負事には，どうしても勝ち負けがついて回るが，本校第1グラウンドで繰り広げられたワンシーン，ワンシーンが全てを超越して，大きな感動を巻き起こしてくれた。運動会の最後に各組の中心になって活躍した応援団の解散式が行われた。静寂に包まれた中，中学3年生として，最後の運動会に参加した各応援団長が，涙ながらに全校生に向けて運動会への思いや感謝の思いを語りかけた。その一言，一言が聞いている人たちの胸を打ち続ける。そして，彼らの視線の先に佇んでいた下級生たちは，その思いをしっかりと受け継ぐ。

「自分も応援団に入って，紅組を優勝に導きたい。」「今度こそ，優勝できるように雪辱を果たしたい。」

こうして，運動会はまた次年度へと繋がっていく。

3. 考察

(1) 運動会を成功させるために

この大規模な運動会の運営に携わってみて，成功へ導くためにはいくつかの重要な事項があると感じた。

① 綿密な計画と組織的な運営

当日を迎えるまでの練習、諸手続、保護者送迎バスの手配、会場設営及び用具の準備、当日の運営、後片付け等、多岐に渡って詳細な計画を立てて遂行しなければならない。そこには海外ならではの難しさも潜んでいる。特に以下の点については、日本での開催以上に各学年主任、各係主任、その他の職員と連携を密にし、組織の力で取り組んでいかなければならない。

- 児童生徒及び保護者の安全な動線の確保（校門～グラウンド、グラウンド内での移動等）
- タイ国の気候への対策（暑さ対策、スコール対策）
- 競技時間の厳守（保護者や児童生徒の帰宅バスの関係から）

指示系統を明確にし、その指示者は、どこで、だれが、どのような計画で動いているのかを全体把握し、仕事が円滑にできるように他の学年や係とコーディネートする必要がある。

② 集団性・協調性を意識した児童生徒への指導

低学年や中学年等のブロックで行う団体演技などは、多い場合で児童が700人を上回る場合もある。少しの体型移動の練習にも多くの時間を要する。よって限られた時間の中で効果的な指導を行うためには、児童生徒へ集団で行う際のルールや取り決めを徹底させ、みんなで協力して1つのことをやり遂げる素晴らしさや充実感を味わわせていかなければならない。

(2) 日本文化としての運動会

バンコク日本人学校には、10,174㎡の第1グラウンド、19,363㎡の第2グラウンド（200mのタータントラック、4面のテニスコート、2面のバスケットボールコートを備える）、2つの体育館と多目的ホール、熱帯の気候のため年間を通して使用できる50mプール等、素晴らしい体育的な施設が存在する。これらを有効に使用しながら、体育の授業が展開されている。また、タイ国日本人会が主催するサークル活動があり、バレーボールやテニス、そして剣道や柔道等から選択し、放課後や休日に運動に親しむこともできる。さらに近年では、増え続ける日本人の子ども達を対象にサッカーチームやバスケットボールチームなどが開設され、クラブスポーツも充実してきている。運動するのに大切とされる仲間、空間、時間の3つの観点から見ても、バンコクで生活する児童生徒の運動する環境は整っていると言える。このように恵まれた状況の子ども達が、運動会を最も楽しみにし、最も大切にしているという点はとても興味深い。

「運動会」の歴史を紐解いていくと、日本国において1800年代後半に始まり、瞬く間に全国に広がっていったと言われている。現在では、小中学校を代表する大きな行事であり、地方によっては、学校の枠を超えて地域の行事の1つになっているところもある。運動会で行われる種目は、集団性や協調性を重視する日本人の国民性が強く表れているとされる。バンコク日本人学校の運動会で行われている種目も玉入れや綱引き、騎馬戦等、昔ながらのものがほとんどで、現在も継承され続けている。

海外の地であるバンコクにおいて、日本と同様の運動会が55回にも渡って行われてきた背景には、そういった運動会の性質・特質が重要視されてきたためではないかと考える。海外で生活する日本人の祖国への思い、そして忘れてはいけない日本人としてのアイデンティティと日本の伝統、それら全てが包括され日本文化の1つとしてこの運動会が成り立っているのではないかと考えずにはいられない。

4. 終わりに

私自身、日本の小学校で何年にも渡って体育主任を務め、運動会の運営に関わってきた。しかしながら、今回、こうして海外で行われている運動会に携わることができ、大変貴重な経験となった。バンコク日本人学校の子どもたちや保護者の運動会へかける思いや願いは、日本とは比べようがないぐらいに熱い。私自身も運動会を通して、遠く離れた祖国を思い出し、そして日本の素晴らしさを学ぶことができた。